

Newsletter

JAPAN SOCIETY OF EDUCATIONAL INFORMATION

日本教育情報学会

NO.167 2018.9.20

〒659-8511 兵庫県芦屋市六麓荘町 13-22 芦屋大学技術研究棟若杉研究室
日本教育情報学会 運営本部事務局 TEL: 090-1026-1413 FAX: 050-3488-5061
E-mail: jsei@ashiya-u.ac.jp http://jsei/home

日本教育情報学会「第35回年会」開催

会 場 : 岡山理科大学

(岡山県岡山市北区理大町1-1)

開催日 : 2019年8月24日(土)・25日(日)

※詳細は次号掲載予定

***** 第34回定時総会報告 *****

2018年8月25日(土)13:15から松蔭大学厚木森の里キャンパス松蔭ホールにおいて、日本教育情報学会第34回定時総会が開催されました。

正会員465名のうち265名の出席があり(委任状による出席者195名を含む)、定款27条により総会は成立し、林徳治会長を議長として総会を開会しました。

【提案された議案】 (Newsletter No.166をご参照ください。)

第1号議案 2017年度事業報告及び収支決算の件

第2号議案 2018年度事業計画及び予算案の件

第1号議案は、原案通り承認されました。

第2号議案は、原案通り承認されました。

総会終了後、日本教育情報学会賞の表彰式を行いました。

2018年度収支予算書（自2018年4月1日 至2019年3月31日）

1. 収入の部

（単位：円）

科 目	予 算 額	備 考
1 会 費	3,769,000	
（1）専門会員費	1,630,000	10,000円×(147+新入会16)人
（2）一般会員費	1,883,000	7,000円×(246+新入会23)人
（3）学生会員費	76,000	4,000円×(11+新入会8)人
（4）公共会員費	180,000	15,000円×12団体
（5）賛助会員費	0	
2 入会金	47,000	47人
3 寄付金	0	
4 雑収入	934,000	
（1）過年度会費	734,000	未納会費
（2）その他の雑収入	200,000	掲載料など
5 前年度繰越収支差額	1,490,333	
収 入 合 計	6,240,333	

2. 支出の部

（単位：円）

科 目	予 算 額	備 考
1 管理費支出	2,350,000	
（1）会議費	200,000	運営委員会・年会企画委員会など
（2）旅費・交通費	600,000	運営委員会・年会企画委員会など
（3）通信・運搬費	500,000	機関誌発送費・事務連絡費など
（4）消耗品費	200,000	消耗品など
（5）印刷・製本費	300,000	封筒、別刷など
（6）諸謝金	300,000	人件費など
（7）広報費	150,000	HP改良費、リーフレット作成費など
（8）雑費	100,000	手数料など
2 事業支出	2,520,000	
（1）総会・年会	520,000	年会開催補助費、学会賞、総会資料代など
（2）機関誌	1,600,000	教育情報研究、Newsletter、編集委託費
（3）研究会	400,000	研究会活動補助費
3 予備費	1,370,333	事務局移転に係る経費
支 出 合 計	6,240,333	
収支差額	0	

***** 2018年度日本教育情報学会 学会賞受賞者 *****

1. 奨励賞（1件）

前年度の学会研究発表大会において発表された優れた研究および学会誌研究報告の中から選考する。

堀信哉（大垣市立南中学校）、久世 均（岐阜女子大学）、齊藤陽子（岐阜女子大学）

「思考力を高めるための学習プロセスの反応分析に関する研究【Ⅱ】

－レスポンスアナライザーを活用した発問応答の時系列分析－

（第33回年会発表）

2. 論文賞（該当なし）

3. 特別賞（該当なし）

***** 日本教育情報学会第34回年会開催報告 *****

第34回年会実行委員会委員長
松浦 広明

平成30年の日本教育情報学会の年会を、8月25日（土）・26日（日）の期間に「学校教育と地域力を考える」というテーマで、松蔭大学で開催しました。2日間とも天候に恵まれ、残暑の厳しい厚木森の里キャンパスで熱い議論が2日間にわたり交わされました。

今回の年会では、課題研究において各研究会によるテーマの他に以下の観光教育、看護教育、幼児・保育者教育などにかかわるテーマを設けた10のテーマとし、50件以上の口頭発表となり活発な議論の場が増えたかと思えます。一般研究では、8つの会場セッションからなる80件以上の発表のなかに学生セッション5つの口頭発表を加えました。今回は、学生研究推進のために、学生セッションの特別優秀賞として厚木市長賞を設けました。参加者からも教育関係者だけでなく地域にかかわる方々の参加者も多く集まっていただきました。

25日は「学校教育と地域力を考える-学びと実践のフィールドとしての地域-」のタイトルで記念講演を行い、地域を学びの場とした活動から、強靱かつ持続可能な地域社会の実現、学校と地域が実現できる多種多様な教育活動という視点で、「地域力」を議論させていただきました。それに引き続き本学の鷲尾裕子准教授をコーディネータとした、シンポジウムを開催しました。シンポジウムでは、垣内史堂（松蔭大学看護学科長）教授からは、地域在宅医療の重要性から看護師の役割と看護師教育に関してお話いただきました。次に、袁廣偉（曲阜師範大学）教授には国際協力の視点から、中国現地の高校、大学及び教育施設と連携した外国人日本留学事業において、異なる文化と社会の違いからの現地事情、留学事情などをご報告いただきました。そして、市町村の取り組みとして佐後佳親（厚木市教育委員会 学校教育部長）先生から、地域とともに特色ある学校づくりを進め

る厚木市のコミュニティ・スクールの活動から地域力のお話をいただきました。最後に、室谷心（松本大学）教授から、松本市で開催している大学生や短大生が教えるキッズプログラミング教室の取り組みが、地域における情報教育の普及という大学の地域貢献と位置付けられる活動であり、学生にとっての教育にも大きくかかわるという提案をいただきました。各先生が、それぞれの立場における地域力が持つ多様な側面を御講演から、大変貴重な知見を頂いたと感じております。

また、協賛企業におきましては10社以上の企業様からご協力を頂き企業展示を行いました。今年から新たに開催したランチセミナーもでは、厚木バーガーご提供させていただき、厚木のグルメを堪能していただく企画となりました。今回は地域との関係性を重要視した年会とするため、神奈川県、神奈川県教育委員会、厚木市、厚木市教育委員会の講演もあり、今後の教育情報にかかわる研究の一つの考え方の基盤が出来上がったのではないかと思います。

年会の運営では、各実行委員の先生方だけでなく、芦屋大学、帝京大学、松蔭大学の学生を中心とした学生の方々に、活躍していただき多くの負担をおかけしました。当日の運営で、座長を務めていただいた多くの皆様、学会当日臨機応変に働かれた学生スタッフの皆様、その他多くの方々のおかげで年会を無事に終えることができました。この場をお借りして、お礼申し上げます。本当にありがとうございました。

年会は、教育と研究において幅広い出会いの機会となります。特に、若手研究者や学生会員の皆さんにとって、様々な知見を得る場でもあり、情報交換の貴重な場でもあります。来年の年会は、岡山理科大学で開催いたします。岡山で再びお会いできることを心から楽しみにしております。

***** お知らせ *****

◆年会費納入のお願い

2018年度・過年度年会費について、納入がお済みでない方には、同封の別紙を確認していただき至急お手続きをお願いいたします。

お支払いいただいた際の振込金受領書は大切に保管してください。その他、会費お支払い等についてご不明な点のある方は、事務局までお問い合わせください。

◆学会誌「教育情報研究」の投稿募集について

日本教育情報学会では年間3冊の学会論文誌「教育情報研究」を発行しております。掲載内容は教育情報に関する原著論文をはじめ下記の論文を掲載しています。

投稿方法等詳細については、学会HPをご参照ください。

○論説・解説 ○論文 ○実践論文 ○研究報告 ○その他